

發行 市原商工会議所
加茂青年部
發行責任者 大曾根友三

中山光夫士団長

とな
り返
金は
当然
枝を
どん
荒れ
溝開
やろ
ひま

「こうした秘密基地的なものは隠れ家的な遊びの拠点
を山の中にしてしまつたらどうだろう。まず計画を立て
てる。この段階が楽しい。一人でできないこともないが
グループの方が楽しい。どういふものにするか。酒でも
飲みながらどういふ話を。そしていふ話はワンフク
てくる。単純に掘つ建つ小屋にしよう。山小屋風がいい
昔の花ん坊のように木の上がいい、ツリーハウスなんて
いふのはどうだ。テントを張るだけいいじゃないか」

せながら、露酒のついでに、お茶のものがいい。話は大いに盛り上がる。あつたな、あつたな、あつたな、あつたな、と。翌日酔いが醒めて冷静になる。それを何度か繰り返している内に、表現可能な真体性を帯びてくる。お茶金はいけなす。すると知恵はとんと出た。

当然周りをきかずにする必要性に迫られ、草刈の枝を切る、道を掃る。広場がほこり、じゃあ周りをとんときかずに、奥のたき火にももたれ、草刈の荒れた谷津田を借りて草刈り、ひまわりの種を煮、溝開のひまわり畑を見せよう。それは絶対に秘密であつた。それを見たときどんな顔をすれば楽しめたか、ひまわりのじやあもさへなす、八重がいない、ミチのひまわりは、カーキヤンのひまわりもさへなす。柿を植へよう。梨もさへなす。ミチもさへなす。お茶の木を植へよう。花見をかねよう。

のために山をきれいにする。草刈りをする。それだけで自己満足する部分があるかもしれない。しかし、そこに楽しみを見つけてしまえば、その行為は続く。積極的に関わるようになる。逆に、ボランティアから始めたいものがないとした義務感に委わってやめと苦痛を伴うようになる。それは長く続かない。草刈りをやめた

そこでビールを飲んでバーベキューをしよう。いっそのこと一白儲けの切つてキャンピングをしちゃおう。テントを張つて寝るでなやまやうんと知らないとチクタクして痛いぞ。草刈りかまして気合いが今く違う。とちうらが手股とちうらが目的か、それははっきりしている。草刈りは手股にすぎない。目的は別にある。それでいいのではないでしようか。

うん。

NPO法人市原ネイチャークラブの人たちが月崎の森に造った山小屋で、土地の開墾から始めたといふことです。木を掘起してつくった活動計画をきいてくると、うん、うん、これも随分家めいたものですね。

加茂地区には子供会から老人会まで沢山の団体があ
ります。という団体、というグループであらうこの
隠れ家計画は実現可能でしょうが、その中で、山で遊ん
だ経験を持った人間がおり、仕事に多少の疲れはあるも
のの地域の担い手として心身共に充実している世代の団体
20代から50代くらいまでを含めたこうした団体がこの
加茂地区にはいくつもあります。知っているところでは
飯給の親和会、高滝の友和会、養老の東朋会、万田野の
万友会、朝生原の青朝会、團本の一七会など。(名前が
らするとここかの友好団体と間違われそうですが、れっ
きとした各地域の団体です。これらの団体は横の連絡が
ないためにすべての団体を把握しきれず、名前の出なか
った団体の方達にはご容赦願います。)この人達を中心
となつた動き始めのころのことだったのでこのときはな
くこのように。

地域の人達から、土地所有者が、土地所有者をよく
知っている。山を知っている。道具がある。ノウハウが
ある。行動力がある。遊びを知っている。仮に一人でも
できる。俺たちの裏山に隠れ家つくっちゃおか。

畠山県では山の下草狩りに全国から草刈り隊を募集して
その人達の手を借るで行っています。加茂地区でもそれ
は可能かもしれないませんが、自分たちの手で自分たちの土
地を、楽しみながら再生していけたらそれが一番いいで
しょう。

隠れ家作りは実に贅沢な里山での遊びです。里山のなかに
市街地をつくってみたいですね。

遊びながら里山は再生してあげる。里山の再生そのもの
ものが遊びの中に入っている。なまのそとに動いてく
る人間が生き生きといる。再生としての活性につ
いては人間が再生と調和して居るんだなと思ふ。

ねえ、田舎はいいわ。

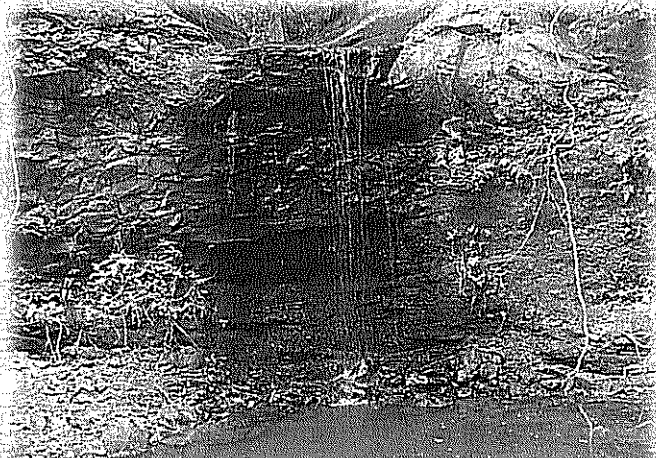
本市	支店	〒290-0549	市原市万田野 2-6
原	支店	〒290-0023	市原市惣社 1-1-22
南	支店	〒290-0255	市原市牛久 450-1
木更津	支店	〒292-0065	木更津市吾妻 2-7-20

ISO9001：2000認証
代表取締役 大曾根 友三
〒290-0221 市原市馬立414-1
TEL.0436-95-3023 FAX.0436-95-223



土太郎の滝の思ひ出

松本靖彦



いたと思つてゐた。自然に對する脅威や畏敬の念をこの時は強く持ったことはない。

私の中の冬休みは、夜の恐怖に怯えながら過ぎた。

士太郎の炭竈は、その冬で終つた。アズキアライの伝説からも急速に遠のいた。

だが、いたずらでいじわるで仲間を嫌われ者であつた自分自身の中学時代に於て数少ない友儕や冒険にかかわる鮮烈な記憶である。

士太郎の興山はその後、

土太郎の奥山はその後、
砂利の採掘が進み山の姿

は一変した。

アズキアライの

いづれの世に

がなくなりました

「た」

そして同窓会の

農に之といはあ

の折目分たてを見
合ふ一瞥先一匪

擧て一書を賢かる

いたと森を買め、
で。W.D.

寄稿

公本特美

林之立原具

100

土太郎の滝を蘇らせよう

かつて、土太郎の滝（万田野の人はドンドンの滝とも言っていた）は、青く深い滝壺を持ち、水壺壺かで、亀や鰻まで住み、子供の間では、アズキアライや大亀まで住むと言ひ伝えられた伝説と畏敬の滝でした。昭和〇年代の里見や高滝の子供達は、恐る恐る見に行つたものです。また、近くに川のない万田野の子供達は、釣りや水浴びもしたものです。近年様々な事情で忘れ去られてしまいましたが、周囲の開発にも耐えて、元気に生き抜いていました。これだけの落差と滝壺をもつ滝は市原では珍しいと思います。

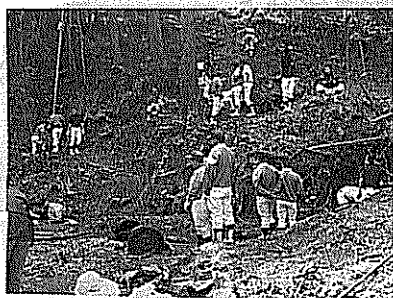
デーマーチ」(4月29日)の15キロのコースにもなっていることから、何とか蘇らせたいと考えました。

- 1、瀧岡辺の地権者の調査
- 2、話題の提供と協力者の依頼

とにかく4月29日までに瀧周辺のゴミの除去と雑草の刈取り、枯れて散乱している竹の整理を考えました。そしてニュースになればワンデーマーチの参加者が増えると考えました。(アイチャネル・千葉日報・高滝小・里見小・里山通信・その他)

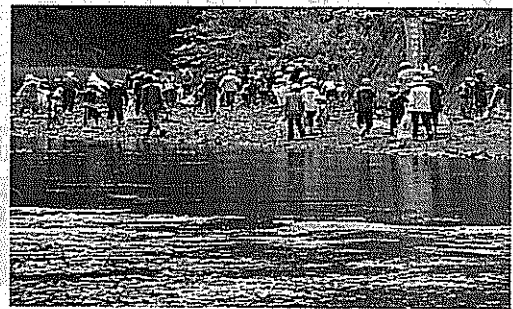
- 1、多くの人を知つてもちつて情を維持する。
- 2、ゴミを捨てないよう看板などで注意を促す。
- 3、有志で定期的に清掃、調査する。
- 4、「1」守る会」をつくる活動する。
- 5、政治的に利用しない。

以上の内容が今後の活動の中心になります。



加茂中の生徒さん達も大勢、滝周辺の清掃に参加してくれました

みんなの川をキレイにしよう
養老川河川清掃行われる



捨てるバカと捨てる善

6月1日(水)に養老溪谷温泉街の河川敷で清掃作業が行われました。川を美しくする会(岡本良一会長)の呼びかけで実施された事業ですが、白鳥小学校の全校あげての協力や、大人だけでも50人を超える善意の参加者がありました。

協力団体は次の通りです。

白鳥地区町会最会、白鳥地区婦人会、白鳥地区老人クラブ、朝生原寿会、養老溪谷観光協会、戸面寿会、溪泉荘、小湊鉄道、青朝会、市原南ライオンズクラブ、市原中央ロータリークラブ、養老川鮎釣研究会、市原市三師会、養老川漁業協同組合、市原東ライオンズクラブ、五井婦人会、市原市造園緑化協同組合、市原グリーンライオンズクラブ、高滝湖観光企業組合、東京電力、白寿会、高根会、白鳥小学校、里山通信編集部

皆さん、苦勞様でした

（大曾根里山通信員）

お詫び

響(4月24日発行)でご紹介した ウルトラ
 マシンは主催者の諸般の事情により急遽中止と
 なりました。里山通信を見て現地に行かれた方は
 ガッカリされたことと思います。謹んでお詫び申
 上げます。

イベントの開催告知の難しさを編集委員一同痛感しております。

あれから・・・

市民と行政の協働を推進し、市民の視点から「まちづくり事業」を提案、「市原市総合計画」に盛り込みながら実践していくという趣旨で始まった「市民会議」。

前回4月25日発行の「里山通信」でお伝えしたように、熱い議論が交わされております。集まった委員の志は「今よりもっと素敵な加茂地区」を「地域の人、次代の人」と言っているのでしょうか。

事務局では委員の召集から、加茂地区の素敵なところと気になるところを洗い出し、整理したところをお伝えしましたが、さあその後の展開は・・・

第4章 あふれる思い

3月25日に開催された市民会議の議事録から一部を紹介しましょう。
「人が集える拠点作りをし、交流の向上を図りたい」(交流、地域活性化)
「農地の有効活用を図るべきだ」(地域活性化)
「地域活性化のために加茂ブランドというべき名物を作る」(経済向上)
「過疎解消の為に公共交通の整備が必要である」(地域活性化)
「農地の荒廃、後継者不足などの農業問題の解決策が無いだろうか」(農業振興、地域活性化)
「自然が荒廃しているので保全対策を図りたい」(魅力アップ)
「自然をいかしたイベント開催」(魅力アップ)
「観光地やイベント会場に駐車場がほしい」(交流、地域活性化)
「高齢者の通院、ヘルパーの需要など医療問題の解決」(快適で安心な生活)
「農業の体験と学習の場を創る(交流・地域活性化)」

市民会議見聞録②

第5章 どうします?

4月15日(木) 田んぼでは農作業の真っ最中というのに開催された会議。
あふれる程の意見を具体的な事業にまとめるべく、今回のテーマ、加茂地区で考えられる事業を列記してみよう。



※農地の活用
*休耕地を使った花いっぱい運動
*貸し農園、農業体験 *エコ農産物の生産促進(有機無農薬栽培) *特産品創設事業
*地産地消の推進事業 *朝市、産直の拡大、充実
※山林の活用
*里山里親事業 *地元木材の利用促進(木製品、間伐材) *竹木炭の生産
*体験学習 *山遊び体験学習 *山菜取りツアー *昆虫園 *遊べる山事業
※川、溪谷、ダム、湖の活用
*クリーン大作戦 *生物、植物体験 *つり関連事業 *稚魚の放流
*カヤック、ボートの溪流くだり
※その他
*温泉を利用した植物園 *空き教室利用の星観察、シルバースクール
*待機児童対策 *並木事業(桜、かえで、もみじなど) *小湊線アイデア活性化事業
*ふるさとの味提供事業 *公共交通対策事業
*安心見回り隊 防犯、高齢者、児童 *不法投棄撲滅大作戦

第6章 なにができるの

4月30日(金) 連休の合間を縫って、田植えで疲れた体に鞭打ちながら今回もよく出席していただきました。(部会長談)
今回の会議では今までの議論を体系的にまとめる、将来的な目標とそれを実現する為にすぐ実践できる具体的な事業をはっきりとさせることが主目的となった。

将来的には加茂地区にグリーンツーリズムを確立すること、新たな交通手段を確立することの2点に絞り込んだが、文章だけでは理解がいたるだろうか? はなはだ不安であります。
*注(グリーンツーリズム) ゆとりある余暇を過ごしたいと願う人々がふるさとを求めて農山村などの田舎を訪れ、自然や文化に触れながら農林業体験や地元の人々との交流を通じて心身のフレッシュをしようという旅のスタイルであり余暇を過ごすための手法。鴨川の「棚田、水田オーナー制度」は一例となる事業。

第7章 どこからどけるの

5月13日(木) 19時からの会議開催。今日のテーマは、なにか手をつけられるか。どう始めるのか。それとひとつ、市全体の市民会議にむけて、全地域共通のテーマに加茂地区部会としての対応をどうするか決めていくというもの。

イメージとしては、中心に事業のアイデアを据えてそれを五つのテーマにすり合わせていく感じ。これとは別に新たな交通手段確立に向けた動きも行う。というのが我々の狙いとなった。

5月28日(金)

YOUホールで市全体の市民会議。支所単位で分けられた7地区の経過報告を主に情報交換を行った。
(大曾根山通信員)



これら二つの事業の詳細については説明し切れませんが、読者の皆様それぞれ想像してみてください。皆さんの頭の中に浮かんだことが加茂地区活性化のアイデアです。せっかく浮かんだ貴重なアイデアを実現したいと思いませんか? 市民会議のメンバーはすでにウズウズ始めているよ!!



あなたも、まちづくりに参加してみませんか

加茂地区で
タウンミーティング開催!

市民会議 加茂地区部会

「元気な市原」を実現するには、まず地域の活性化を図ることが重要です。そこで、市原市では、市民と行政の協働によるまちづくりを「市民のまちづくり事業」として、総合計画に位置付けていくため、「市民会議」を設置し、地域の方々が主体となり行うことのできるまちづくり活動を検討しております。

今回、この会議の加茂地区部会において、これまで検討してきた活動内容を広く地域の方々にお伝えし、協力や運搬をいただき、より実行性のある活動にしていけるため、タウンミーティングを開催いたします。

地域の皆様には、この活動内容について、ご質問、ご意見をいただくとともに、地域の方々が主体となり行うことのできる事業を一緒に考え活動していただきたいと考えています。

日 時	平成16年7月31日(土) 午前10時から
場 所	加茂公民館 体育館
内 容	(1)加茂地区部会の活動報告 (2)地域が主体となり行うことのできるまちづくり事業の検討内容 ・元気な加茂をつくるには ・加茂にバスを走らせよう (3)まちづくり事業に対する意見交換

どなたでも参加できます
多くの参加をお待ちしています

問い合わせ先
市原市企画部総合計画課
23-9820 (直通)

加茂の里づくり
一緒に活動してみませんか

豊かな自然も荒れ放題。立派な農地も耕しきれない。
加茂の里はこれからは寂れてしまうのか・・・

あんが まだまだ捨てたもんじゃねえ。
みんなでちからあわせりゃ
てえげえなこたあでさっぺよ。
素敵な「ふるさとづくり」
できる事から始めませんか。

- 素敵な場所、お気に入りの景色、散策道
教えてください。
「おらほん穴場マップ」を作って加茂の良さを再発見!
- 遊休農地ありませんか。花を一杯咲かせましょう。
(地主さんの了解が得られる場所に限りです)
- ボランティア募集
穴場もゴミだらけじゃしょうがない。荒地も耕さなきゃ花も咲かない。
片手にスコップ、片手にビール。気楽に参加してください。

詳しくは
加茂里づくりの会
大曾根まで
TEL.95-3023
(太陽工業内)
FAX.95-2235

BRICK & WOOD CLUB
ウェディング (挙式・披露宴)

ランチ・各種パーティー・宴会

ランチ 800円～
宴会・パーティー 2000円～
ウェディング
お一人様8000円～

(株) 高滝リンクス倶楽部

ブリックアンドウッドクラブ

〒290-0558 千葉県市原市山口
予約TEL 0436-98-1330
メールアドレスinfo@mail.brickandwood.com/

加茂米くらぶ

花の嫌いな人は、よほどでない限りそう思っていないと思いますが、牛久周辺がフラワーフェスタの継続的な活動で随分きれいになりました。加茂地区においても最近のガーデニングブームのか家々の周りが結露花で彩られ、この時期いろいろな花を眺めることが出来ます。なんといっても大きな庭付きに住んでいるのですから植える場所にはどこかあります。また野草の花を眺めることに事欠かないこの地区ですが、普段気にもとめない花もよく見ると、小さな可憐な花を付けています。そういえば、小学生のころ根本祐二先生(山口)に在任していましたに野草の名前をたくさん教わりました。なぜかオオムシノフグリしか覚えていない私はどうなんでしょうか。

また、最近ダム周辺でホタルが多く見られるようになりまして、今年も一個所新しい場所を見つけた。来年の季節までにはお知らせしたいと思えます。また皆さんの中でホタルを観賞できるところを存知の方お知らせください。地図にしたいと思えますのでよろしくお願いします。

ペッペ 語録屋
A君「ビールはかたて便所ちかてな、めえ運るよ。」
B君「おう、あんたていつていっかい」
今回は、(あ)と(む)をとりあえました。

加茂地区以外ではまず使われていない様で、他の地区の人達には何の事やら理解に苦しむところでしょう。言葉として使っている分にはそれほど気にしていないのですが、文字にしてみると実に不思議な感じがします。こんな文章見たことないですね。またこの地区では蛙のことを(か)と(む)という言い方もあり、その動作から(あ)と(む)という言葉が生まれたのかも知れません。この号が出るころには子供達は夏休みに入っていると思いますが、(クツチャム)に気を付けて(セイカチ)採りに頑張ってください。

(山沢里山通信員)



クツチャム

セイカチ

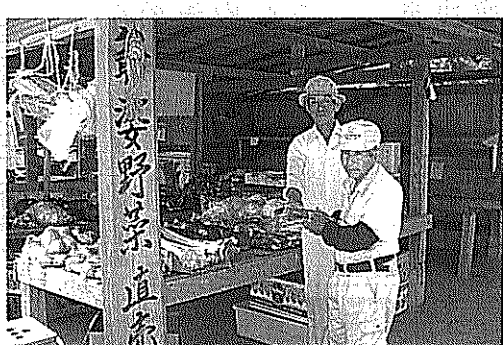
高滝神社下直売所

加茂直売所
高滝神社下直売所を紹介いたします。ここには無人の直売所と有人の直売所の二ヶ所があります。無人の直売所は、現在七名の出展者によって運営されています。鳥居に向い右側にそれぞれのスペースごとに区切られた販売所の作りになっており、ほとんど毎日各自が作った野菜類を中心に品物が売られています。また昨年度は、加茂中の生徒たちが学校の農園で作った野菜も売られました。ご多聞にもせず(残念な事ではあります)品物や売上金が盗られたりもするということですが、常連のお客さんに声をかけられたり喜ばれたりすることが何よりうれしいことです。

直見聞記

有人の直売所は、神社下の石井商店側に位置しては土曜、日曜の週末営業です。直売所の左手に、爺婆野菜直売所の看板があります。(実はこれ私が建てたものです。結構気に入っています)古殿の林さんと清水さんが交互に店番をしています。お茶を飲みながら世間話に花を咲かせつつ野菜を眺めることが出来ます。お越しの際にはぜひ声をかけてくださいとの事です。

週末には高滝神社下直売所で、甘味処がオープンしています。(11時~16時迄)



高滝神社の奥様がおもてなしをしてくれました。一度のぞいて見ると、いかでかかたか。通信員(山沢里山)のついで話が弾む気さくな店長(林さん)左

魚屋の戯言

夏場がおいしい季節になりました。

「七ツ星」七度洗えば、鯛の味。昔から鯛が盛んだった鯛子に伝わる句だそう。七ツ星というのは、鯛の体の両側に七ツ星の黒い点状の模様がある事からつけられた鯛の異名なのですが、まさにそのとおりで鯛は洗えば洗うほど美味しくなる言われます。

以前は一年中いつでも豊富にあり、価格も安い事もあって私たち魚屋にとってもお客さんにとっても大変親しまれた魚でしたが三年ほど前から急に姿がなくなっていました。

私が見た中では市場(千葉中央卸売市場)に5kg入りの箱が2箱しか入荷がなかった事があります。その時は確か一箱八千円の値段がついた記憶があります。一箱は35尾前後なので売値は一尾250円位になってしまっています。こうなるとお魚が少なくなりました。

鯛が少なくなった原因はクジラの増えすぎにあるという説もありました。本来なら人間の口に入るのは鯛をクジラが食べてしまふという説です。商業捕鯨が禁止されて20年経ちますが調査捕鯨で捕れたクジラを調べてみるとお腹から大量の鯛が出てくるんだそうです。今では一尾1000円以下で売れる事がめっきり少なくなっています。魚屋の悩みの種になってしまっています。

鯛は三月から三月にかけて産卵期を迎えます。産卵を終えた魚は脂肪分がなくなりあまり美味しくないと言われますが、それから夏にかけて餌を食べてつづけて7月から9月にはまた脂がついてきます。

私の経験では鯛は産地によって味が変化する事は無いようです。鮮度がよければどの鯛でも美味いと考えています。鯛という魚は字を見ても、また語源は「鯛」という説もあるくらいに鮮度の落ち易い魚です。

鮮度の見方はよくわかりますが、大きな目安になるのは鯛のお腹を見ます。柔らかく崩れそうになっているのは論外ですが固すぎるものもいけません。指で押すと適度な弾力があるものが新しい鯛の特長です。それと一つ一つは市場でもなかなか少ないのですが、もしも体にぬめりが残っている鯛を避けたら文句なくお勧め

大衆魚だった鯛も今は貴重品



です。是非とも召し上がってください。料理の方法は読書の皆さんもよくご存知だと思いますので今回は書くのは止めました。鮮度のいい鯛はやはりあまりいじらずにシンプルに料理の方が美味しいように思います。私は大根おろしをたっぷりの添えた塩焼きと酢で鯛が大好きです。

(鈴木里山通信員)

通信員紹介

鈴木 猛(すき たけし) 51才 独身

魚屋の戯言担当。文章からも窺うことが出来るが魚にかける情熱と酒の造詣は尋常ではない。ただし最近では若い時の無理がたたってアルコール禁止令が出されているらしい。風が吹いても痛くなる病が出てしまったようだ。「鯛などの青魚を定期的に摂取してはいいが、魚は元々のもので自分で食べるものではない」と心に決めていたようなそぶりである。

おまけに「野菜は虫が食った」と言われて言いつく日本人の心でも言う「漬物」からはおまけの距離を置く傾向に好まれている。



昔取った杵柄でスリクソン・インビザードがはたしてビリアルドのフロが日本に何人居るとの程度の盛りしをしてはいるかは定かではない。

若かりし頃に「はるルシエ」を乗り回していたオシャレなおじさん、よくよく「Iシャツと平ズボン」を愛する当編集部最年長にしてキョートなキャラクターである。

編集後記

たいした雨も降らずにどうも梅雨明けしてしまいました。連日8℃近くの真夏日に加え、このカラカラ状態では人間・田畑の作物等、里山全体がパテパテです。なんとが暑さをしのぐと、もうじき「納涼・」と称して盆踊りや花火大会が目押しとなってきます。花火を見るのは本当にいいものです。大人も子供も見物中は何もかも忘れて見入ってしまいます。中には全国の花火を巡って見に行く人もいます。

昨年、里山通信に、「市民花火大会の協賛金を特定の企業や自営業者ばかりに依頼するのは、おかしいのではないか」という意見が述べられていました。「市民全体個人レベルからも協賛金を募りたい」ということですが、確かに良い事だと思います。

本当に花火を楽しむに「是非協力したい」と申し出る人は少なくないと思います。今、不景気の消費志向は、無駄な物には一円だって使わないが、自分の認めたものには惜しまずお金を出す。のが顕著になった様に思われます。協賛は任意のものですが、本当に出したい人のお金を増やすのが、ひいては市民花火大会の盛り上がりにつながるのではないのでしょうか。

最近、加茂地区でも地域活性化に向けての活動がいろいろ始まるようになってきました。地域の人が少しくすすでも開かれ、小さな事からでも必ず形になる。そんな雰囲気がとても待ち遠しい今日この頃です。

加茂青年部のホームページ開設される

このたび、当青年部に念願のホームページが出来ました。これによって全国、いや全世界に「加茂」がデビューしたわけですね。何となくこのサイトでは、今までの「里山通信」が全てカラーで見ることが出来ます。とにかく一度覗いてみてください。

アドレスは

<http://www.yo-to-kadoya.co.jp/kamoseinenbu/>

です。「ヤフー」や「グーグル」などの検索サイトから「加茂青年部」や「里山通信」で検索しても見る事が出来ます。

次回発行は秋号の予定です